

韓日女子学生の体型意識と衣服の購買・着装行動について (第1報)

—韓日女子学生の体型意識について—

○安 玉姫** 孫 珠熙* 李 正玉** 中川早苗* (*奈良女大、**嶺南大)

目的 現代の若い女性にとって、スリムで美しいプロポーションが社会的に望ましいとされる今日、衣服によって自分の体型の欠点をカバーし理想の体型に近づけるために、デザインや着こなしでどのような工夫をすればいいかは大きな関心事であろう。本研究では韓日女子学生の体型意識と衣服の購買・着装行動の差異について明かにするために、本報では体型意識の差異について調査をもとに検討する。

方法 調査は韓国の嶺南地域と日本の関西地域に在住する女子学生を対象に、1998年7月から10月に質問紙によって行った。有効回収数は日本242票、韓国242票で、計484票を実際の分析に使用した。分析には単純集計やクロス集計による平均値の差の検定、 χ^2 検定を行って体型意識の差異を比較検討した。主な調査項目は体型に対する満足度、現実の体型と理想とする体型、身体及び衣服のサイズである。

結果 体型に対する満足度を見ると、全体的なスタイルと顔については韓国の女子学生の方がやや満足度が高く、身長については日本の女子学生の方が満足度が高く、下半身についてはいずれも満足度が低かった。現実の体型と理想とする体型については24項目の形容詞対を用いて5段階で評定を求めた結果、現実の体型については胴が短い、バストが大きい、脚が長い項目に日本の女子学生の方がやや肯定する割合が高く有意な差異が見られた。現実の体型と理想とする体型との差異については全般的に日本の女子学生の方がギャップが大きく、下半身のおなかと脚の細さや長さについては両国の女子学生ともに大きなギャップが見られた。このギャップをうめる上で、衣服が重要な役割を果たすものとする。